

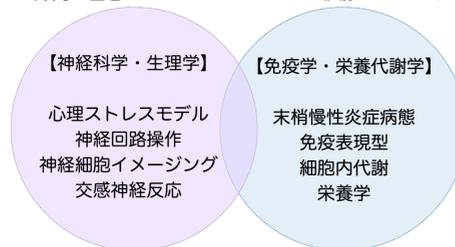
研究概要等

心理ストレスや情動が生体調節系へ作用し、体温、脈拍、血圧などを上昇させることは「**心身相関**」として知られています。長期にわたる心理ストレスは自己免疫疾患の全身性エリテマトーデス(SLE)の発症リスクが高いという報告があり、大きな注目を集めています。本ユニットでは、**SLEの発症や病態の増悪に心理ストレスがどのように関与するのか明らかにし、ストレスによる病態増悪の分子・細胞メカニズムを明らかにします。**

研究大学強化推進事業
若手新分野創成研究「心身相関病態研究ユニット」


 NAGOYA UNIVERSITY
Graduate school of Medicine
医学系研究科・統合生理学分野
片岡 直也

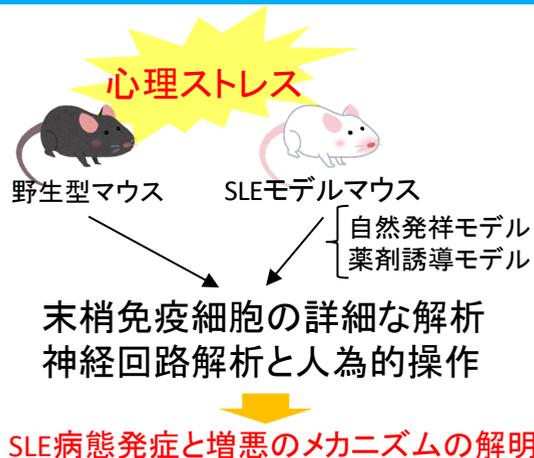
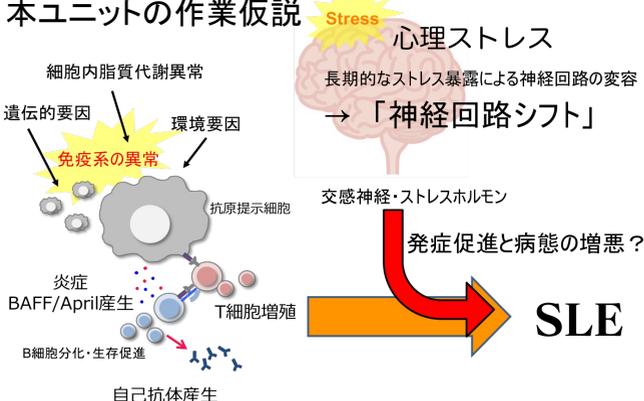

 環境医学研究所・分子代謝医学分野
伊藤バディジャ 綾香



既存の発想では生まれない
脳機能に着目した新たな慢性炎症性疾患克服戦略の追求

主な実験方法

本ユニットの作業仮説



様々な心理ストレスを野生型マウスとSLE病態マウスに与え、末梢免疫細胞の動態解析を行います。さらに、マウス脳内の神経回路シフトがどのタイミングで起こるのかを、ファイバーフォトメトリ法や光遺伝学、化学遺伝学的手法を駆使し明らかにします。

今後の計画・構想等

ストレスによる神経回路の変容である神経回路シフトがSLE病態に作用する際の標的免疫細胞群を特定していきます。免疫系に心理ストレスがどのように影響を与えるのか明らかにし、ストレスの科学的実態に迫るだけでなく、SLEの発症機序や病態改善に繋がる成果が期待できます。